

出エジ 25 出エジプト記 18章 13節～27節

「イテロの助言」

1. 文脈の確認

(1) レフィディムでの体験

- ①メリバの水
- ②アマレクとの戦い
- ③イテロとの出会い（激闘の後の静寂とでも言うべき風景）
 - *イテロの到着
 - *イテロの助言

(2) 摂理による神の業

- ①これまでは奇跡の連続であった。
- ②ここでは、摂理による神の業に目を留めたいと思う。

2. アウトライン

- (1) モーセの激務（18：13～16）
- (2) イテロの助言（18：17～23）
- (3) 助言の受容と実行（18：24～26）
- (4) イテロの帰還（18：27）

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) リーダーのあるべき姿
- (2) リーダーの行動力
- (3) 聖書的教会像

このメッセージは、**聖書的リーダーシップを学ぶためのものである。**

I. モーセの激務（18：13～16）

1. 忠実なリーダー（13節）

(1) 「翌日」

- ①イテロと食事をした翌日のことである。
- ②しゅうとをもてなす暇もなく、モーセは仕事に励んだ。

(2) 「座に着いた」

- ①さばきつかさ(裁判官)としての責務を行っている。
- ②争い好き、口論好きな民である(モーセやアロンにも反抗する)。

(3) 「朝から夕方まで」

- ①種類も深刻さも異なる雑多な争いごとが持ち込まれて来た。
- ②150~200万人の争いごとが持ち込まれて来た。
- ③いつ果てるともしれない激務である。

2. イテロの疑問(14節)

「モーセのしゅうとは、モーセが民のためにしているすべてのことを見て、こう言った。『あなたが民にしているこのことは、いったい何ですか。なぜあなたひとりだけがさばきの座に着き、民はみな朝から夕方まであなたのところに立っているのですか』」

(1) 観察

- ①観察しているのは、イテロが有能なリーダーであることの証拠である。
- ②その観察は、モーセとイスラエルの民に祝福をもたらすという動機に基づく。

(2) 質問

- ①知らないからではなく、会話を導くための知恵である。
- ②なぜ責任を分担しないのか。
- ③なぜ民はいつまで経っても自分の問題を聞いてもらえないのか。

3. モーセの回答(15~16節)

「モーセはしゅうとに答えた。『民は、神のみこころを求めて、私のところに来るのです。彼らに何か事件があると、私のところに来ます。私は双方の間をさばいて、神のおきてとおしえを知らせるのです』」

(1) 神のみこころを求めて

- ①マナと安息日に関して
- ②礼拝の規定に関して
- ③相互に果たすべき義務に関して

(2) 何か事件があると

- ①刑法的なもの
- ②民法的なもの

③道徳法的なもの

- (3) モーセは双方の言い分を聞いて、判断を下す。
- ①律法がまだ与えられていないので、モーセの指示を仰ぐ必要があった。
 - ②判断を下し、何を為すべきかを教えた。
- (4) このようなリーダーシップを取っていた理由
- ①エジプトの統治形態は、パロによる専制政治である。
 - ②エジプトからは、ハムラビ法典のような法体系は発掘されていない。
 - ③すべては、状況に応じたパロの命令によって決定された。
 - ④エジプトで教育を受けたモーセは、エジプト風リーダーシップを採用した。

II. イテロの助言 (18 : 17~23)

1. 現状評価 (17~18 節)

「するとモーセのしゅうとは言った。『あなたのしていることは良くありません』」

- (1) 道徳的・倫理的評価ではない。
- (2) 今の方法は、正しくないという意味である。
- ①ひとりで重荷を担ぎ過ぎている。
 - ②モーセも民も、疲れ果ててしまう。

2. 助言 (19~23 節)

- (1) イテロはモーセに、預言者としての役割と管理的役割の分離を勧めた。
- (2) 預言者としての役割
- ①民の代表として神の前に出る。
 - ②事件を神のところに持って行く。
 - ③神の教えを民に伝える。
 - ④なすべきことを民に教える。
- (3) 管理的役割
- ①千人の長、百人の長、50人の長、10人の長を民の上に立てる(さばきつかさ)。
 - ②資格は4つある。
 - *力のある人々(精神的力のこと)

- *神を恐れる人々
- *不正の利を憎む人々
- *誠実な人々

(4) 権威の委譲

- ①さばきつかさたちが、民をさばく。
- ②大きい事件の場合は、それをモーセのところに持って来させる。
- ③小さい事件はみな、彼らがさばく。

(5) 神の御心

「もしあなたがこのことを行えば、——神があなたに命じられるのですが——あなたはもちこたえることができ、この民もみな、平安のうちに自分のところに帰ることができます」

- ①イテロは、モーセがこのことについて神に祈るであろうことを確信していた。
- ②自分の助言が神の御心と合致するなら、という意味である。
- ③自分の助言を受け入れてそれを実行するなら、長く奉仕することができる。
- ④民にとっても祝福となる。短時間の内に、自分の住まいに帰ることができる。

III. 助言の受容と実行 (18 : 24~26)

1. モーセはしゅうとイテロの助言を聞き入、すべて言われた通りにした (24~26 節)。

(1) 千人の長、百人の長、50 人の長、10 人の長の任命

(2) 役割の分担

- ①彼らは、むずかしい事件はモーセのところに持って来た。
- ②小さい事件は、自分たちでさばいた。

IV. イテロの帰還 (18 : 27)

1. 安心して国に帰った。

(1) ミデヤンの地

(2) 老年のゆえに、約束の地への旅には加わらなかった。

2. 彼の子孫は、イスラエルの信仰に改宗する。

(1) 士1:16 ケニ人

「モーセの義兄弟であるケニ人の子孫は、ユダ族といっしょに、なつめやしの町からアラデの南にあるユダの荒野に上って行って、民とともに住んだ」

(2) I歴2:55 レカブ家

「ヤベツに住んでいた書記の諸氏族は、ティルア人、シムア人、スカ人。彼らはレカブ家の父祖ハマテから出たケニ人である」

(3) エレ35:1~19 レカブ人の家

「イスラエルの神、万軍の【主】は、こう仰せられる。『あなたがたは、先祖ヨナダブの命令に聞き従い、そのすべての命令を守り、すべて彼があなたがたに命じたとおりに行った』。それゆえ、イスラエルの神、万軍の【主】は、こう仰せられる。『レカブの子、ヨナダブには、いつも、わたしの前に立つ人が絶えることはない』(18~19節)

結論：このメッセージは、聖書的リーダーシップを学ぶためのものである。

1. リーダーのあるべき姿

(1) 熱心さ(勤勉)

- ① 始めたことを完成させようという決意
- ② フォロワーよりも多く働くという決意

(2) 謙遜(心が柔らかい)

① 民12:3

「さて、モーセという人は、地上のだれにもまさって非常に謙遜であった」

② イテロはモーセのしゅうとであり、年長者である。

③ しかし、神に関する知識においてはモーセが格段に上である。

(3) 良きリーダーは、良きフォロワーでもある。

2. リーダーの実行力

(1) 真の実行力とは、暴走する力ではない。

(2) 神の御心に沿って実行する力である。

① 申1:9~18 モーセの律法を与えられて以降のことである。

- ②イテロの助言を受け入れたが、それを実行に移すまでに時間が経過している。
- ③モーセは神に祈って、それを実行に移した。
- ④民の同意を得て、それを実行に移した。

(3) 実行する前の熟慮

- ①神のみこころを確認したか。
- ②状況が整っているか。
- ③かかわる人たちの同意を得ているか。

3. 聖書的教会像

(1) 使6：3～6

「そこで、兄弟たち。あなたがたの中から、御霊と知恵とに満ちた、評判の良い人たち七人を選びなさい。私たちはその人たちをこの仕事に当たらせることにします。そして、私たちは、もっぱら祈りとみことばの奉仕に励むことにします」。この提案は全員の承認するところとなり、彼らは、信仰と聖霊とに満ちた人ステパノ、およびピリポ、プロコロ、ニカノル、テモン、パルメナ、アンテオケの改宗者ニコラオを選び、この人たちを使徒たちの前に立たせた。そこで使徒たちは祈って、手を彼らの上に置いた。

- ①霊的資質：御霊に満ちた人
- ②人間的資質：知恵に満ちた人

(2) 預言者としての役割と管理的役割の分離

(3) 聖書的教会像の特徴

- ①単独の人物による管理ではない。
- ②完全な民主主義でもない。
- ③複数のリーダーシップによる管理が想定されている。

(4) 単独の人物による管理の危険性

- ①カルト化の危険性
- ②その人物がいなくなった時に、教会が消滅する危険性